

平成29年度 「学力向上のための学校改善プラン」

校長名	一谷 浩之	教頭名	長谷川英昭	教務主任	南 和雄	研究部長	安田美加子					
教職員数	23	通常学級数	9	特別支援学級数		知的1, 自閉情緒1	児童数	250	P.T.A数		HPアドレス	www.simizu-es1@city.tomakomai.hokkaido.jp

本年度の学力向上のための学校改善プラン「わかった できた 達成感」を合言葉に、全市で統一して取り組む「苫小牧市学力アクションプラン」を推進し、日常実践の授業改善を全教科へ展開していく。また、支ええる「清水スタンダード」を作成するにあたっての基本的な考え方「の徹底を徹底し、言葉づかいやあいさつなど、適切な言語環境を整える必要がある。」

1	平成28年度末の状況	中間検証時の状況
学校の状況	国語や算数の授業で「課題」や「まとめ」を板書することができ、算数では「習得」と「活用」をバランスよく位置づける授業づくりを目指し、全校体制で取り組むことができた。その結果、教えなければならないことを教え、基礎的・基本的な知識・技能の定着が少しずつ図られるようになった。ただ、他の教科に反映させるまでには至らなかった。平成28年度の全国学力・学習状況調査においては、平均正答率で国語Aは全国平均より4.8%下まわり、国語Bは11.7%下回る結果であった。また、算数Aでは全国平均より15.5%下回り、算数Bでは6.1%下回る結果であった。苫小牧市統一学力検査の得点率においては、4年国語は0.6%下回り、算数は3.0%下回り、5年国語は2.7%下回り、算数は0.1%上回り、6年国語は11.4%下回り、算数は10.0%下回る結果となった。これらの結果から、自分の考えを説明する力や記述する力に課題があることが明らかになった。また、資料やグラフから読み取れることや考えられることで課題が見られた。	

2	平成29年度	中間検証
学力向上の具体的な到達目標	(1) 平成29年度全国学力・学習状況調査では、国語・算数とも全国平均を0.3%上回る結果を目指す。 (2) 苫小牧市統一学力調査では、全教科全領域において全国平均を0.3%上回る結果を目指す。 (3) チャレンジテストにおいて、80%以上の正答率を目指す。 (4) 宿題や家庭学習を進んで行った(Aと答える)と言える割合を70%以上を目指す。 (5) LITによる授業公開に、1人1回以上参観する。	プランの変更 有 ・ 無 進捗状況の評価 A B C D

3 学力向上の具体的な到達目標を達成するための今後の具体的な取組(項目別)

	主な取組内容	取組内容の評価指標	1学期				2学期				3学期			中間検証		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	評価	改善のために行う今後の重点
指導方法・指導体制を含めた授業改善	算数科において習熟度別少人数指導やTT指導など、指導方法の工夫改善	3年以上で、TT指導100時間・習熟度別少人数指導125時間以上確保する。(3, 5年は単学級のため、TT指導50時間となり、1, 2年もTT指導50時間実施。	TT指導・習熟度別指導の授業実践												A B C D	
	共通取組事項(本時の目標の焦点化・本時のゴールのイメージ化・ねらいとまとめの視覚化)をふまえた授業改善	すべての学級で年1回以上の研究授業(ブロック授業含む)を行う。すべての教科で焦点化した目標を立てた授業80%以上。すべての教科で視覚化した「ねらい」と「まとめ」を板書した授業80%以上。	全体及びブロックごとの研究推進				校内授業研究①②		校内授業研究③		成果と課題把握					
	自分の思いや考えを説明し合う場の工夫	ペア学習やグループ学習、書画カメラを活用した授業80%以上実施。	中間検証													
学習内容の定着および基礎学力の向上	4, 5年で、全国学テの過去問題の実施	過去問題の全国・全道平均同等の得点。無答率を5%以下とする。	中間検証												A B C D	
	チャレンジテストの継続的な実施および分析	チャレンジテストの正答率80%以上。無答率を5%以下とする。	チャレンジテスト実施検証				チャレンジテスト実施検証				チャレンジテスト実施検証					
	漢字の習得、九九や四則計算などの習得	ミニテストや単元テストで正答率80%以上。	年度末検証													
学習習慣の定着	清水スタンダードの徹底を徹底	全教員が同じスタンスで児童の指導にあたる。課題とまとめが書かれた板書・ノート指導80%以上。	年度末検証												A B C D	
	「家庭学習の手引き」を活用した家庭と連携した学習の習慣化	家庭学習時間「学年×10分+10分」の実施70%以上 宿題や家庭学習を進んで行ったと言える割合70%以上	家庭学習の手引き配布				生活リズム週間アンケート実施で点検改善		学校評価(児童アンケート)で確認検証		生活リズム週間アンケート実施で点検改善					
	朝の時間や日常的な読書の充実および読書習慣の定着	月1冊、年間10冊以上の読書実施	年度末検証													

